

鎮山親水プロジェクト

～森と水を未来へつなぐ挑戦～



熊本県山江村

山江村の概要

- 平成元年に開通した九州自動車道が南北に縦断しており、熊本市内から車で約1時間、隣接する人吉市の中心部からは車で約10分と交通の便に恵まれています。
- 人口：3,092人（男：1,450人・女：1,642人）令和8年2月末現在
- 世帯数：1,187世帯
- 高齢化率：38.65%
- 年少人口率：13.65%
- 面積：121.19km²（約90%が山林）
- 集落数：16区67集落
- 産業別人口
 - 第一次産業 288人（17.7%）
 - 高齢化率（農業）：68.4%
 - 農地面積：6.30km²
 - 第二次産業 393人（24.1%）
 - 第三次産業 950人（58.3%）
- 基幹産業は農林業（主な特産品：栗・米）

「やまえ栗」が特産品。栗まつりの開催や栗の日の制定など、栗が村のアイデンティティとなっている。栗の出荷量は410トン（昭和62年）に達して最盛期を迎えたが、現在は高齢化、担い手不足、環境変化により生産量約91.0トンに減少。

令和6年3月に地理的表示保護制度(GI)登録



やまえ栗

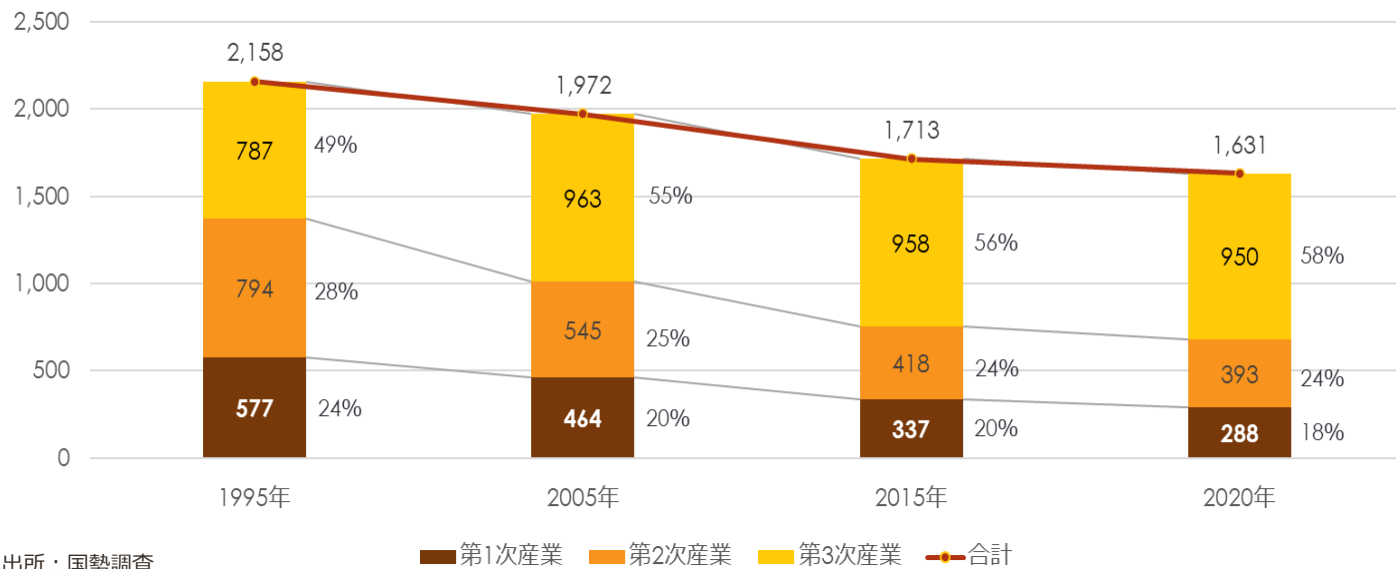
農林水産大臣登録第151号



総人口の減少に伴い、山江村の**林業従事者が減少**しており、山林を保全するための人材が不足している。山林に関わる**従事者の不足が山林の荒廃を招く**。

[人]

産業三分類就業者数



出所：国勢調査

■ 第1次産業 ■ 第2次産業 ■ 第3次産業 ● 合計



- ・山江村の第一次産業の従事者数は**20年前の半分近くに減少**
- ・**低賃金などを原因**に、新規就労者が減少し、高齢化と共に従事者は減少

- ・人工林の保全には人による適切な働きかけが必要
- ・**担い手不足により、森林の維持が困難に**

現在

- 壊された川
- 見向かない山
- 希薄化したコミュニティ

令和2年7月
豪雨災害発生



※被災状況(万江川、宇那川)、ワークショップ

「地域住民の声」

基本理念

鎮山親水 (ちんさんしんすい)

自然との共生意識や畏敬の念を持ち、自然と親しむと同時に怖さを知り、自然との関わり方を見直すことを表した山江村復興事業の基本理念

未来像

- ◆ 山を守り、川と山との共存
- ◆ 災害に強く
自己治癒力の高い村づくり
- ◆ 自治コミュニケーションの再構築
- ◆ 復興による地方創生の実現

林業振興施策一覧

- ①山を守る人材育成
- ②環境保全型林業の実践
- ③森林環境譲与税を活用した民有林の整備
- ④有害鳥獣の被害対策
- ⑤自然に親しむ環境づくり
- ⑥脱炭素・循環型社会の推進
- ⑦自然環境保全の推進



上流域：大川内

治山施設から溢れる土砂

植樹活動の様子



(目的)

山江村・村民・地域企業・関係団体が協働で、自然災害に強い森を育て持続可能な林業を通じて地域社会を豊かにし「鎮山親水」の考えを実践する目的。

(内容)

- 市場で林業事業者がしっかりと利益を生み出せる「儲かるシステムづくり」を構築
- 「球磨ひのき」のブランド化による付加価値向上
- 「やまえ栗」を使用したレシピ作成・商品開発・販売の実現

(効果)

- 林業の担い手不足を解消する
- 森林・環境保全の魅力を広く発信する
- 新商品を五月祭や駒場祭での出店・販売

特別市の様子

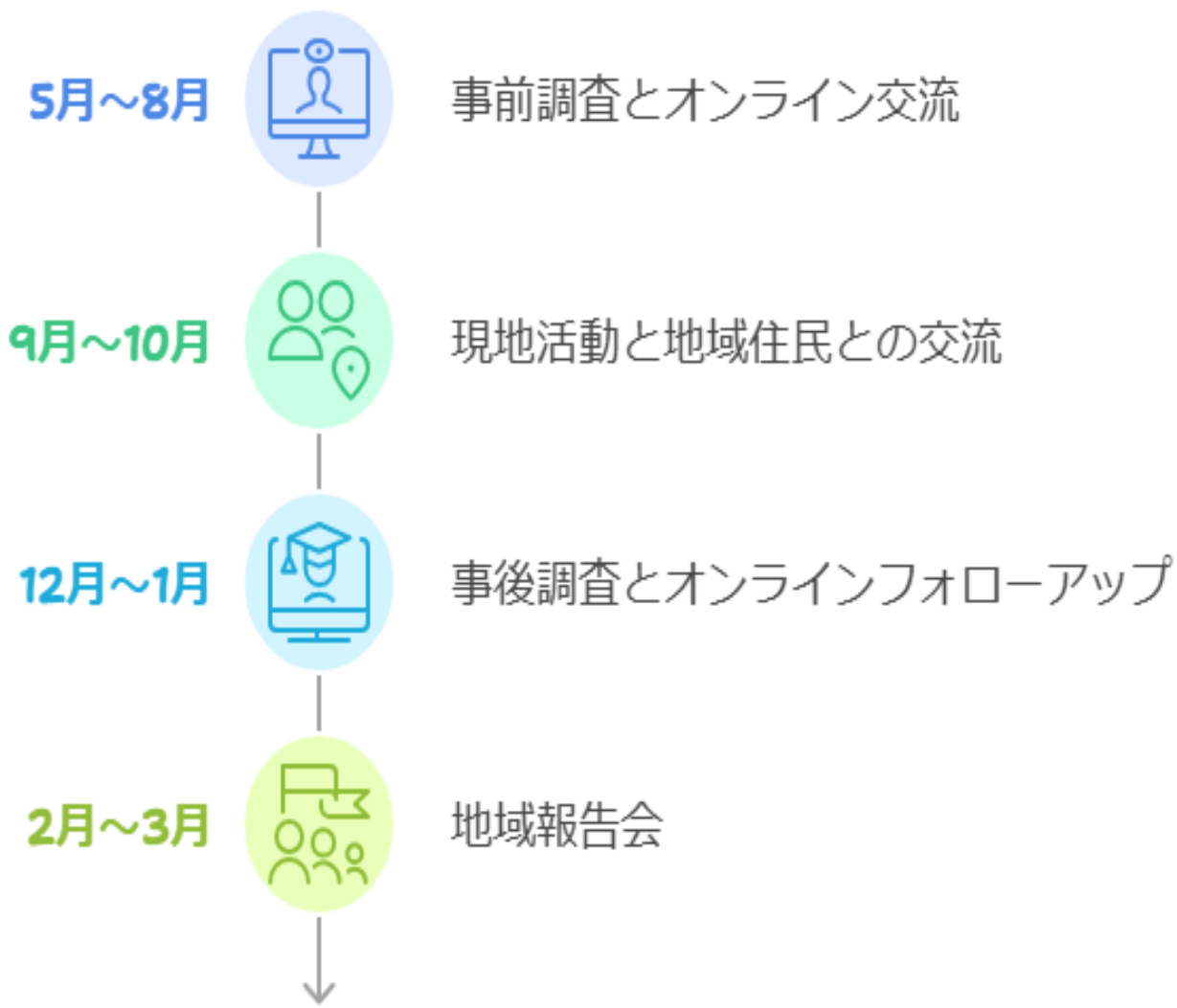


球磨地域のスギ・ヒノキ
ブランド化をさらに推進しようと企画
スギ・ヒノキの特別市開催

試作品（シュークリーム）



地域参加のためのプロジェクトタイムライン



■背景と課題

令和7年に「千年の森づくり構想」を立て事業に取り組んでいる。現在は伐採から市場での販売までを行っているが、今後は林業事業者がしっかりと利益を上げられる「儲かるシステムづくり」を構築していくことが、林業の担い手不足を解消するためにも不可欠となる。更に「球磨ひのき」のブランド化による付加価値向上などを通じて、森林・環境保全に興味のある方々へ林業の魅力を広く発信していきたいと考える。

また、令和7年度に取り組んだ、本村の特産品である「やまえ栗」を使ったレシピ作成・商品開発・販売の実現に向けて継続した活動を希望する。

■学生の皆さんに期待すること

- 現地調査では、地域住民や森林関係者、クラブ及び行政と連携し積極的な意見交換を行う
- 多くの関係者を巻き込み、見たこと感じたことを率直な意見として伝えてほしい
- FS終了後も山江村との継続的な関係を築いてほしい